

「全鍍連」 2022年 4月号 巻頭言

全鍍連 常任理事 鈴木 泰造 (鈴木鍍金工業(株) 代表取締役)

「さまざまな節目」



突如として現われた未知のウィルスにより、2019年より私たちの身のまわりの状況が一変し、今までの“普通”が姿を変え始めました。どのような状況であれ「変化」というものを受け入れる事は容易いことでは無く、それなりの心構え・覚悟・決断・柔軟さなど様々な事が必要になって参ります。おそらく会員の皆様も様々な場面に於いて思い当たる“節(フシ)”があるのではないのでしょうか。

“節”に関連して、竹は節がある事により上へ上へと高く伸びても強度が保たれているそうです。それと同時に強さだけではない簡単には折れないしなやかさも持ち合わせているスペシャリストです。竹のように強さと柔軟さを兼ね備え、風雪に耐えたいものですが、いまだ我々の業界が取り巻く環境は厳しい状況が続いております。自動車産業においては半導体不足による生産工場の停止が改善されたかと思えば、今度はコロナによる海外生産の遅れから部品調達が出来ず生産工場の停止が続いており、1月から3月にかけての増産予定も未定となっております。このような不安定な製造現場にニッケル・錫・亜鉛などの金属価格の上昇、塩類・各種薬品等が軒並み値上がりを続け追い打ちをかけております。このような状況下においてめっき価格の見直しは急務となっております。しかし、簡単には価格改定が受け入れられる状況になく困難を極めます。また、コロナ禍において外国人技能実習生の入国が停止しており、人材の確保も厳しい状況が続いております。我々のめっき業界は外国人技能実習生の受け入れに関し「特定技能」という枠が認められておらず、あらゆる産業に不可欠な技術力のあるめっきである事を広く認識していただき、人材不足という問題を少しでも解決できればと願っております。

めっき業は加工業として分類をされますが、いつしか製造業(メーカー)としての地位に立ち、自ら製造したものを消費者へ提供するといった製品が出来れば面白いなと考えております。変化を受け入れる時代だからこそ、新たなるものを創り出すことが出来るチャンスと捉え、会員の皆様と様々な意見交換が出来る日を心待ちにしております。地上に出ている竹の一本一本は、すべて地下茎で繋がっているそうです。全国鍍金工業組合連合会の会員の皆様との“繋がり”を大切に、そしてより密なものとしてこれからの様々な困難に立ち向かっていくことが出来ればと思っております。